

現代心理学編 第1部

全13巻

監修 ● 筑波大学教授 大内茂男 / 筑波大学教授 金子隆芳
■ 時間: 各巻 約20分

1 人間の情報処理

〈指導〉 徳島大学 松田隆夫

●カラー

人間の情報処理とは、正に心の働きの全体であり、狭義に考えても、環境情報が刺激として生体内に入力されて主体的認知が成立するまでの全ての生理心理的過程が対象となる。

この作品では、人間を人間たらしめている「パターン認識」の問題を取上げ、特に最初の入カステージに仮定される情報の一時的格納機構に関する研究を紹介し、合わせて人間のパターン情報処理過程の全体的構造を描く。

2 感覚と感情

〈指導〉 日本大学 山岡 淳

●カラー

色・音・味などの刺激が与えられ、それらを感じ知覚する時、それに伴って種々の感情が生起することは、日常生活において多く経験するところである。これは「人間らしい生活」の特質のひとつともいえるもので、色彩感情、形態感情、造形心理学、表現音楽などと呼ばれるものがそれである。

この作品では代表的な例をあげて、それらの性質や特徴を探り、「感覚—感情」のメカニズムを追求する。

3 薬物と行動

〈指導〉 筑波大学 岩崎庸男

●カラー

ノイローゼや精神病を治療する方法として、現代では薬物療法が主流となっている。各種の向精神薬が開発され、患者に投薬されているが、ではこれらの向精神薬は一体どのような精神症状に有効なのであろうか。

この作品では、実際の患者の諸症状とそれらに対する薬物療法、及び基礎的研究として行われている動物実験について紹介し、向精神薬の有効性や作用のメカニズムについて解説する。

4 人間の初期経験

〈指導〉 日本女子大学 高橋たまき

●カラー

この作品では、人間の初期経験を大きく2つに分けて考える。第1に乳児期における外部環境との相互交渉を扱い、初期経験の重要性を描く。第2に全盲または全盲に近い状態で視覚を奪われていた人々の開眼手術後における視覚の初期経験と初期学習を扱い、手術直後には〈見る〉ことがいかに難しいことか、そして一見生得的に思われるこのような行動も生後環境における学習経験を必要とすることを、〈見る〉学習のプログラムによって明らかにする。

5 大脳機能の側性化

〈指導〉 国際基督教大学 原 一雄

●カラー

大脳の両半球で営まれている心理的機能について、はたして右と左で違いがあるだろうか。この作品では、まず失語症の症例を観察し、脳の損傷部位の違いによる症状の特徴に注目する。次に、大脳半球の機能的非対称性について、視覚・聴覚・脳波などを用いた代表的実験方法を示す。これらの基本的な方法を通して、大脳機能の側性化の問題を考え、両半球の統合作用の重要性にふれる。

6 人 間 工 学

〈指導〉 関西学院大学 杉山貞夫

●カラー

オートメーションの時代に入り、人間—機械系のよりよい対応を目指す人間工学は、正に時代の要請するところとなった。

この作品では、先ず人間工学の歴史にふれ、次に人間工学が追求している目標と目標達成の典型的な例をあげ、心理学との関連を考察する。さらに研究方法としてのシステムアプローチを取上げ、それらの研究の結果、どのような機械系が作られ人間の役割がどのように変化したかを示し、今後の問題点を明らかにする。

7 バイオフィードバック

〈指導〉 信州大学 田上不二夫

●カラー

従来から、自律神経系および自律神経系の支配下にある内臓反応は古典的条件づけによって制御され、運動反応などの随意的行動は道具的条件づけによって変容されると考えられてきた。しかし、内臓反応の道具的変容が実験的に確かめられることによって、これらの2分法は再検討されることが必要となってきた。

この作品では、行動の自己制御という観点からこれらの問題を考察していく。

8 心 の 葛 藤

〈指導〉 同志社大学 松山義則/浜 治世

●カラー

人間はもともと心の葛藤のなかで生活し行動するものである。興奮と抑制、現実と理想、あるいは人と人との間にあって行為の決断をせまられているのである。

この作品では、人間存在の基盤にみられる心の葛藤即ちコンフリクトの心理学的規制について、理論的・実践的・社会的そして臨床的諸問題を取上げ、コンフリクトのなかに生きる人間の行動法則を総括的に考察する。

9 心 の 投 影

〈指導〉 早稲田大学 本明 寛

●カラー

絵画史の中で偶然的な形、質感の獲得という事件がある。デカルコマニがそれである。無意識の表現は、現代の芸術家の課題となった。

この作品では、ロールシャッハ・テストをはじめ、投影法検査の紹介を主として行うが、認知作業を通して心の深い部分の欲求や感情が、私達の生活の中で、どのようにあらわれるかを明らかにしていく。さらに、人物画法やフィンガーペインティングのような表現活動を取上げ、その心理的意味を追求する。

10 カウンセリングと心理療法

〈指導〉 和歌山大学 橋 英弥
四天王寺国際仏教大学 三木善彦
●カラー

心の健康は、人間が社会の中で生きていくためには不可欠なものである。カウンセリングや心理療法は、それを援助する手段である。

この作品では、まずカウンセリングと遊戯療法の実際を紹介し、次いで、日本の文化に根ざした心理療法として最近注目されている内観療法を取りあげる。これらの技法を通して心理療法の治療的メカニズムを考察する。

11 集団の行動

〈指導〉 筑波大学 竹村研一
●カラー

社会的認知には、単純な「もの」の認知とは異なるいくつかの特徴がある。それらには「合理的」とは言い難いものが多く、また我々はそのことに気付かないまま集団内の対人行動を行っていることが多い。

この作品では、この問題を①対人印象形成におけるバイアス、②原因認知におけるバイアス、③集団行動におけるこのような社会的認知の影響に分けて取上げ、それと集団過程との関係を考察する。

12 異常事態の心理

〈指導〉 東京外国語大学 安倍北夫
●カラー

この作品では、人間が強い恐怖や不安、あるいは異常に強い期待にかけられるとき、どのような行動をとるかを考える。まず個体としての恐怖や不安が学習や課題解決に量的低下や質的崩壊をひきおこす様相を動物実験や人間の行動実験から観察する。更に個の集合としての集団や群集の反応の質的変容を実験と過去の災害事例の中から解析してみる。最後にパニックに焦点をあて、パニック生起の条件とコントロール、群集の流動とその崩壊をあきらかにする。

13 組織のグループダイナミクス

〈指導〉 大阪大学 三隅二不二
●カラー

人間は、会社、官庁、学校、諸団体など、色々な組織の中で仕事をしている。普通、職場といえば組織体の中にある。

その組織体は人間の集合体であるので、そこに人間関係や仕事に対する人間的適応、動機づけ、意思決定、リーダーシップなどに関連した組織心理学上の諸問題がある。

この作品では、組織におけるグループダイナミクスと、その中心課題である職場における小集団の役割について考察する。



●お申し込み・お問い合わせは



有限会社 博映商事

【飲酒運転撲滅宣言企業】

TEL 092-741-0306 FAX 092-741-6628

〒810-0073 福岡市中央区舞鶴1-3-31-220

【HP】 <http://hakuei-shoji.jp> 【E-Mail】 info@hakuei-shoji.jp

